

実施クラス				実施日	
5	歳児	ばら	組	7	月 3 日 (木)

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス～天気～ 雨と雪はどこから来るの？		② ③虹
は何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
梅雨の時期は、雨が降ったりやんだりすると「虹が出ないかなあ」とわくわくする様子があった。その際に虹ってどこに出るのかな？いつでるのかな？など質問して考える機会を作っていた。また、5月①の雨はどこから来るのか、の実験を通して「じゃあ雪は？」と興味を持っていた様子だった。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:30	わくわく探求ラボ開始。前回の復習で、どんな天気があるかを確認する。それ	炭酸飲料のペットボトル、白画用紙、懐中電灯、虹の塗り絵、プラコップ、アクリル接着剤、フェルトでできた木、氷 机に3～4人ずつ座り、狭すぎないようにする。
9:45	それぞれの天気が挙がったところで、今日は「虹はどんな色があるのか予想する。また、どんな天気の時に虹が出るのか思い出して話していく。」	
9:50	水をためたペットボトルに懐中電灯を当てて光の反射で虹ができるか実験する。	
10:15	実際に見た虹は何色だったか思い出	
10:30	し、虹の絵に色鉛筆で塗っていく。雪の結晶を作る実験を始める。はじめに、接着剤には触らない事、顔を近づけすぎないことをよく注意してから行う。同時に、結晶化するまで時間がかかるのでコップに水と氷を入れて結露を観察する。また、その結露はどこから現れたのか考察する。出来た結晶を観察。	
10:40		
10:55	結露はどこにあった水なのか？結晶はどこからできたのか？を前回分かった雨や雲の成り立ちを思い出しながら考察する。	
11:15	終了	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
それぞれの天気の成り立ちについての実験を行った。虹を作る実験に関して、本社から送られてきたLEDの懐中電灯では虹が作れず(おそらくアルミホイルを被せても光が広がりすぎて反射しない、LEDのRGB色が強すぎて水の反射に色がついてしまう)、急遽保育室にあったハロゲンの懐中電灯を使用した。するときれいに虹の色が出ていた。前日に行った試験実験では炭酸飲料のペットボトルではなかったため、それが理由かとも思ったが、そうではなかった。雪の結晶を作る実験では、室温が低すぎて結晶化しない児が多かった。環境を整えて後日また活動を行ってみたい。また、接着剤を扱うときに注意点を丁寧に伝えたが、結晶を作る	虹がなかなかできず、LEDの周りの色を「虹だ！」と勘違いしてしまっていたので、最終的には正しい虹の色を見て、何色あるか数えたり、話し合ったりすることができていた。また、雪の結晶を作る実験ではできなかった子が「悲しい」と肩を落としてしまっていたが、「こっちにあるから見ていいよ」など、子どもたち同士で見せ合ったり、感想を言う姿が見られた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
事前実験をもっと早めに行うべきだった。また、室温の配慮を知っておけば全員が実験成功していたかもしれない。自分で調べる時間があまりなかったのも、実験の配慮や注意点をプログラムに書いておいてもらえるものすごくありがたいと感じた。	・子ども達が自分で発見し、発表や一緒に考えていく良い機会になっていると思います。 ・実験をする楽しさやその過程を楽しむことが出来、一つ良い経験になったのではないのでしょうか？ ・継続していくことの重要性に子どもたち自身も遊びや体験を通して、積極的な意見交換や発言が繋がっていったことが保育の展開としてよかった。

実施クラス	実施日	
5 歳児 ばら 組	8 月 14,19,26 日 (火水)	

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの～水～ ①水ってなに？ ②水を探してみよう ③水はどこからくるの？ ④水がないと困るのはだれ？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水についての絵本を読んだり、実際に水を触ってみたいと興味を持つ姿が見られた。水について調べていく中で「どうして水には形がないんだろう」「水がなくなったら困るね」と不思議さや水の大切さを感じていた。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:40～10:00	・絵本「しずくのぼうけん」を読む。 ・水とは何か問いかけ、子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・水はどんなときに使うのか問いかける。 ・水はどこなところにあるのか問いかける。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・水 ・透明のプラスチックコップ ・さまざまな形の容器（皿、コップ、袋など） ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・水の絵本、図鑑 【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。 ・スマートフォンやデジタルカメラのバッテリー残量を確認しておく。
10:00～10:15	・2チームに分かれて園内探索をし、どんな場所に水があるか探してみる。	
10:15～10:30	・どんなところに水があったか発表をし、ホワイトボードにまとめる。	
19日	・ビニール袋やコップなど、さまざまな形の容器に水を入れて観察し、気づいたことを発表する。 ・きれいな水、汚い水とはどんな水なのか、汚い水は使えるのか考える。	
9:40～10:10	・汚い水を使うためにはどうしたらよいか、「水の図鑑」を読んで学ぶ。	
26日	・「しずくのぼうけん」を読みながら前回までの復習をする。 ・水がないとどうになってしまうのか考え、発表。 ・水がないと誰が困るのか考え、水の大切さを感じていく。	
9:40～10:10		

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。 ・水について、色、形、においや流れ、三態と状態変化など体験を通じて探究を深めた。 ・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。	【子どもの姿・声】 ・「水は透明だ！」 ・「水って形ない！」 ・「ここにも水があった！」 ・発見を友達や保育者に共有する姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った？」「Bちゃんは どうだった？」と対話をつなげた。 ・こぼしたり、うまくできなかった場面では「ためしてみて、いいね！」と失敗も前向きに受け止め、再挑戦を促した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・園内の当たり前の風景にも目を向け、水道やトイレだけでなく、お米のバケツや受け皿など意外な場所にも興味を広げていた。 ・一つの発見から友達に声をかけたり、一緒に確かめたりする姿が多く見られ、探究が「個の気づき」から「みんなで学ぶこと」へと自然に広がっていた。 ・「なんで？」「どうしてこうなるの？」といった自発的な疑問が自然と生まれる環境を用意することで、探究心がどんどん引き出されることを実感した。 ・説明しすぎず、子どもの問いに寄り添って一緒に考える姿勢を持つことが大切だということを改めて実感した。	・外の気温により、戸外での活動ができないため、子どもたちの好きな実験という言葉にワクワクしている子ども達の姿を見てみると、すくワク探究活動を楽しみながら参加している姿が見られてよかった。 ・園内の水を探索している時、水道の水だけでなく事務所の冷蔵庫に入っているペットボトルの水を発見し、嬉しそうに他児に報告する姿が見られ、保護者の方に得意げに伝える姿が見られていた。 ・今回、水について学ぶことで水の大切さを学び、日常生活で大事に水を使用することができるところを期待している。 ・人間だけでなく、他の生き物にとっても水は必要不可欠であることを知ることができ、子供たちにとってイメージのしやすい『水』だったためイメージしやすい題材であった。

実施クラス	実施日	
5 歳児 ばら 組	11 月 27 日 (木)	

● 実施計画

活動テーマ		
アート～ふしぎな絵～		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃からお絵描きや塗り絵、製作など絵に触れる機会はあるものの、絵画やトリックアートに興味を示している子は少なかった。絵本やポスターを友達とみて嬉しそうに話し、身近な絵や模様に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・活動の導入として、トリックアートとはどんな絵なのか説明し「今日は色々な絵を見てみよう」と子どもたちの関心を引き寄せていく。	【環境設定】 ・子どもたちが集中できるように机や椅子の配置を整え、活動しやすいように配置する。 ・保育室の壁に、広く間を取りながらイラストを掲示していく。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 【準備物】 ・絵画を印刷した物 ・トリックアートを印刷した物 ・絵画の図鑑
10:10～10:30	・保育室内にあるアートを友達と観察し、感じたことを言い合いながら見る。	
	・角度を変えたりしながら、見え方を確認する。	
10:30～10:40	・特に気に入った絵を一つ選び、その絵について気が付いたことなどを一人ずつ発表する。	
	・目の錯覚、見え方の違いについて振り返り、「もし、この絵を描いたら、どうしたらこんなふしぎな絵が描けるかな？」と問いかけ、今後のアート活動に向けての興味を高める。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
はじめは「トリックアート？」と不思議そうにしていた子どもたちでしたが、保育者から『トリックアート』について説明を受けると「すごいね！おもしろそう！」と興味が沸いた様子だった。そのあとは実際にアートを観察し、「この絵動いて見えるよ」「こっちは人にも見えるし、トロフィーみたいにも見えるね」と大興奮だった。最後には特に気に入った絵を1枚選び、気が付いたことや感じたことを順番に発表をした。	【子どもの姿・声】 ・「この絵、なんだろう？」と驚きの声を上げ、友達と意見を交換した。 ・「これが動いて見える！」や「女の人とおばあさんがみえる！」など、観察しながら積極的に発言していた。 - また、「どうしてこう見えるんだろう？」と自分で考え、疑問をもつ姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちに問いかけをし、観察しながらどんどん意見を出せるように声掛けをしていった。 ・保育室内の壁のいたるところに印刷した絵画やトリックアートを貼りだし、子どもたち自身で探求できるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは絵画やトリックアートに強い興味を示し、驚きながらもさまざまな視点から見ていた。 ・視覚の不思議を実体験することで、単に「不思議だな」と感じるだけでなく、「なぜそう見えるのか」という探究心を引き出すことができた。 ・発表する場面では、少し恥ずかしそうにしながらも自分が気に入った絵について気が付いたことを友達や保育者に伝えていた。	最初はトリックアートという聞きなれない言葉に興味関心を示すというよりは不思議がることが多い園児が多かった。活動を進めていくうえでたくさんの不思議なことが「どうしてこうなったか知りたい」という気持ちが強くなったように感じる。